

大屋ふれあい文化祭

11月19日、恒例の大屋ふれあい文化祭が盛大に開催されました。町内外から280名余りが訪れ、恒例の作品展示や即売会、抽選会などをはじめ、大屋神楽社中の新作「井戸公」の上演などで盛り上がりました。

また、関連イベントとして鬼村・松代鉱山の歴史を紹介する特別企画展、三瓶自然館中村唯史学芸員と阿部志朗大田高校校長の二人による「火山の恵み、鉱山」を話題にしたトークショー、湖陵町の原禎幸さんが製作された静間駅などをモデルにしたダンボールクラフト作品展も行なわれ、来場者の注目を集めました。

の歴史を紹介する特別企画展、三瓶自然館中村唯史学芸員と阿部志朗大田高校校長の二人による「火山の恵み、鉱山」を話題にしたトークショー、湖陵町の原禎幸さんが製作された静間駅などをモデルにしたダンボールクラフト作品展も行なわれ、来場者の注目を集めました。



作品展示



段ボールクラフト作品展



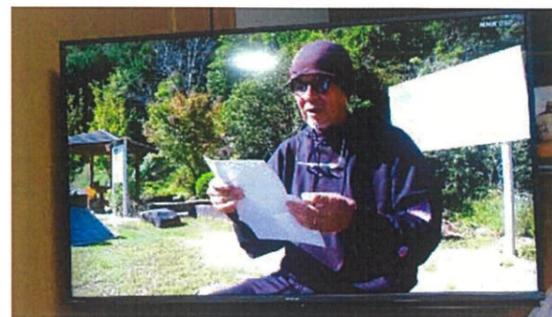
大屋からの情報発信～地域の活性化へ活かそう～

地域の活性化につなげようと、ホームページや SNS を活用しての情報発信が行なわれていますが、このところ大屋の話題が報道機関でも紹介されています。

調理瓦「鬼岩」の製品化については、全国紙をはじめ新聞各社、NHK などのニュースで取り上げられました。更に1月16日のNHK ラジオ「マイあさ！」に、大屋の安立聖さんが電話で出演され、調理瓦鬼岩や大屋神楽の話題を全国に発信されました。また昨年11月7日には、NHK BS の「こころ旅 島根編」で俳優の火野正平さんが、鬼岩前で投稿者からの手紙を紹介し、願い像の手と自分の手を合わせてか

ら、自転車で鳥井海岸へ向う様子が放映され、報道後問い合わせも多くありました。

大屋の知名度アップにあわせ、一層地域を盛り上げていく取り組みを進めたいものです。



鬼岩前で手紙を読む火野正平さん

輝け おおや

～大屋まちづくり便り～

広報第56号

令和6年2月22日発行
大屋まちづくり推進委員会

調理用石州瓦『鬼岩』を製品化

このほど、ふるさとおにむらづくり実行委員会が、地域のシンボル鬼岩をデザインしたオリジナルモデルの調理瓦を、浜田市の石州瓦メーカー亀谷窯業に依頼し製作しました。「大屋ふれあい文化祭」で報道機関等を招き製作発表、試食会を開催し、12月9日に開かれた「日本遺産シンポジウム」の大田会場でも新商品の試食・PR会が行なわれました。直火に対応が出来、煙が少なく焦げにくい、食材がおいしく食べられるなどが特徴で、室内でも気軽にバーベキューなどが楽しめます。

す。大きさは縦横約30cm、重さ約2.5kgで耐久性、安全性に優れ、瓦の端には鬼岩をかたどったデザインと鬼岩の文字が刻まれており、飾りとしても楽しめます。

大田市の日本遺産活用事業を取り入れて、鬼岩の知名度アップを図ると共に、大屋の新たな特産品にと製品化に挑戦されたものです。販売価格は税込み8,000円で大屋まちづくりセンター、道の駅ロード銀山で取り扱っています。



大屋町文化祭での試食会



あすてらすホール前での試食会

季節の花

二月～四月、線形の葉の間から花茎を出し、一本に五～八個の白い花を横向きにつけ、花びらは五枚、真ん中は黄色で切り花としてもよく利用されます。

ニホンスイセン(水仙)
水仙は園芸品種として多類が栽培されていますが、中でも庭先や川沿いの土手、道路沿いなどにまとまって咲いているニホンスイセンは、清楚で香りもあり、大屋の冬の里山には何とも存在感のある花です。



画・れいこ

仏壇に野の水仙を供えれば
暗き灯影に深き香ぞする
佐藤徳郎

まちの話題

グラウンドゴルフ大会

十一月四日、第四回町民グラウンドゴルフ大会が、三十九名の参加で開催されました。途中、雨に見舞われましたが黄色い声もあちこちで上がり、和気あいあい楽しく競技を終えることができました。

ノルディックウォーキング

十一月二十九日、『ノルディックウォーキング』が開催されました。コースは鬼村下自治会館から鬼村トンネル↓山倉寺林道↓鬼岩↓自治会館への約5キロで、約一時間半かけて歩きました。
途中の鬼村トンネル内では大田警察署員から、安全な通行の仕方について指導がありました。

ふれあいカフェ開催

二月一日、まちづくりセンターでふれあいカフェが開催されました。人権についての学習の場で、今回は日常の何気ない会話での、適切ではない言葉遣いや、表現についてのお話を聞きました。その後グループに分かれ意見交換をしました。



ふれあいカフェ

ウォーキング

グラウンドゴルフ

お知らせ

◆行事予定

スナッグゴルフ……3月1日(第2回)、3月8日(第3回) 13:30~

◆短歌を作りませんか!

初めての人、今まで作ったことのある人、経験を問いません。まずは月1回程度集まって一緒に作ってみませんか。お問合せは、まちづくりセンター又は佐藤徳郎さんまで。

◆香典返しにかえて、大屋地区社会福祉協議会へご寄付を頂きました。ご冥福を祈りますと共に厚く御礼申し上げます。

鬼村下……山下幸美様(故 山下栄市様)

渡邊隆司様(故 渡邊登茂栄様)

出雲市 上田公代様(故 寺戸武士様)

大屋上……松原喜久雄様(故 松原照子様)

井上玲子様(故 井上敏彦様)

大屋下……広島県 渡邊研吾様(故 渡邊瑞雄様)

中尾波……田中早苗様(故 田中敦子様)

大屋町の現況(令和6年2月1日現在)

居住戸数 122戸 人口 276人 高齢化率 60.14%

久利大屋交流拠点施設「きずな(仮称)」この秋オープンへ

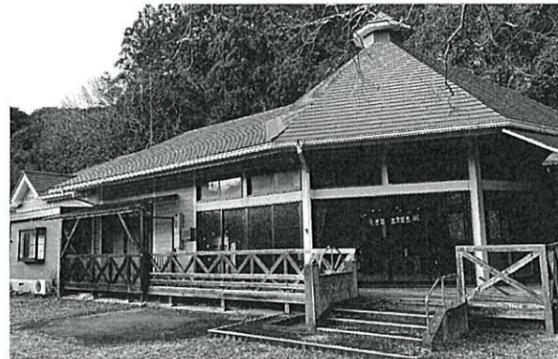
急激に進んでいる人口減少、高齢化による様々な課題に住民が主体となって課題解決に取り組もうと、令和5年9月「大屋まちづくり協議会」が設立されました。

そして10月には資産取得などが可能となる認可地縁団体の認可を受け、このほど旧大屋保育園舎用地を大田市から譲り受けました。

現在、改修のための実施設計が行なわれており、4月から工事に着手する予定です。

工事終了後は住民の憩いと交流の施設として、今秋のオープンを目指しています。

また、現在取り組んでいる自治会輸送の拠点にもなることから、まちづくりセンターとも連携して、一体的な運営が出来る体制整備などの準備作業が進められています。



旧大屋保育園舎

大屋の生活交通 これからが正念場

久利町で取り組まれていた自治会輸送の運行エリアを大屋町に拡大し、利用登録された皆さんの通院や買物などの支援を3年前から行なっています。

しかし、公共交通機関のない大屋町は久利町とは状況が異なることから、昨年11月よりさらに追加で軽自動車を1台借上げ、運行日や運行時間を拡大し、町民の誰もが気軽に利用出来るような、交通システムを作るための試行運転が行なわれています。

小さな拠点作り事業の最終年度となる令和6年度からは、将来にわたり継続出来るよう、本格的な運行を想定した仕組みを作り上げなければなりません。交通手段の確保は、誰もが安心して暮らせる大屋を目指すための大切なまちづくりの一つです。

軽自動車の確保や運行経費の捻出、運転に協力していただく方の確保など、課題がたくさんありますが、町民の皆様のご協力をお願いします。

町民が農道の草刈り

11月12日(日)、農地を守る会の呼びかけで、町民45名が参加して小雨の降る中、今年度2回目の延屋・大国・和田農道一斉草刈り作業を行いました。

道路わきの張り出した枝や、茂った草が刈り払われ、明るく見通しが良くなり、安全に通行できるようになりました。



草刈り作業の様子